

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名： 歯学部/教授

氏 名： 後藤 哲哉

授業科目名	海外歯科研修プログラムV
研修先	ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ・バンクーバー）
研修期間	令和元年9月22日 ～ 令和元年9月29日
〔研修の目的・概要〕 目的：国際的な価値観を学び、グローバルに活躍する人材育成を行う。この研修では、カナダ国バンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学歯学部の授業、実習に参加し、現地の歯学部学生や教員と交流することによってカナダでの歯科医学教育を学ぶとともに、日本の歯科医学教育や歯科医療との違いを学ぶことを目的とする。 概要：海外研修に必要な知識については事前学習を行い、部局間学術交流協定校であるブリティッシュ・コロンビア大学歯学部へ派遣し、現地歯学部生と一緒に授業・実習を受けて学生間の交流を図る。また、カナダと日本との歯科医学教育や歯科医療の違いを学ぶ。帰国後、学内帰国報告会を開くとともに、研修後の講義により渡航研修で得た知識をもとに、今後どのように活かすかを検討する。	
〔研修の成果〕 *事前学習も含む。地域のグローバル化や活性化に資する人材育成についての成果も記載してください。 今回のブリティッシュ・コロンビア大学歯学部の研修は、カリキュラムの都合で当初の2週間から1週間に短縮して行った。また、研修に同伴することができなかつたため、事前に現地の滞在中に必要な知識、習慣、大学のシステムなどを学生に教え、研修中はメールや電話等でトラブルに対応できるようにしていた。学生にはトラブルが起きたとしてもそれをどうにか解決することも海外研修の目的であると伝えており、学生間で協力して対応するよう指導した。それでも、今回の研修中に学生の一人が原因不明の湿疹ができ、その対応で、我々と保険会社の指導のもとに対応を行うことになり、危機対応という意味では良い勉強になったと思われた。派遣した学生の報告から、学生は我々が目的とした日本とカナダの歯科医学教育の違いや歯科医療制度の違いを直接的に学ぶことができたと思われた。特に、授業中の学生の態度や、学生の時から一般の患者を治療する実習スタイルには強い印象を持ったとともに、強いプロフェッショナリズムを感じたようである。日本の歯科や医科の教育、特に臨床教育は多分に職業訓練的な要素を含むが、カナダのように高い意識を持って臨床に望むことを強く感じたと思われる。これらの強いプロフェッショナリズムやモチベーションは今後の地域医療においても大いに役立つものと思われた。また、今後は研修発表会等を行って、他の本学歯学部の学生等にも研修の成果を伝える場を持ちたい。	
〔今後の課題〕 研修に行った学生が指摘しているように英会話力の問題は大きいと思われる。現在、研修派遣で英会話力の規定はないが、研修が決まった学生には自主的に英会話力をつけるようにと指示は出していたが、十分ではなかったものと思われる。英会話力に関しては、単独で指導するには限界があるので、何かしらの規定を支援事業に課すのもひとつの方法だと思われる。例えば、支援を希望するものは英検〇級、TOEIC何点以上などを有するものとしておいてその対策授業的なものを1年生に行えば、英語の授業をより真面目に受ける学生が増えるのではと思われる。あまり英会話力のない学生を送ることは受け入れる大学に対しても失礼なことになってしまうので検討していただきたい。	